

# では、ハガキ文学にさっそく挑戦してみよう!

ぼくは今回も  
ファミリーものでいよ!

SFバニック小説で、  
ビシッと決めるぞ!

では、ふたりもポ  
イントをふまえ、題  
材は身近なところ  
にしよう!



「そんな大きな巻けないよ。第一たくさん使うすしめしは入るの?」  
と聞くと、  
「大丈夫。本番は浴そう使って  
ごはん炊くから!  
さ、あなたも  
早く手伝って!」  
と鼻息を荒くして  
言った。やれやれだ。



スペインのある都市と僕の住む町が姉妹都  
市になり、その「ジャンボバエリア大会」に  
対抗した「ジャンボすし大会」の開催が決定  
したと、商店街は大さわぎ。  
そんなのに参加する人っているんだらう  
か? と、家に帰ったら母が汗をかきなが  
ら、ふとんをすだれて巻いていた。  
「のりまき部門」に参加申し込みをし、さっ  
そく練習らしい。やれやれ。

「メタポリックシンドロームか、恐ろしい...」  
朝ごはんの時、新聞を読みながらババがつぶ  
やいた。  
台所からママがきて、  
「本当に怖いわ、メタポリック。ババ、気をつ  
けて」と言った。  
そういえば、山田先生と教頭先生も「このま  
まじゃ我々も、メタポリックにやられます  
な」と話してたっけ。  
「いつたい、なんなんだ!? メタポリックシンド  
ローム!」  
過激デロ組織か、新型ミサイルか、地球を乗  
っ取る宇宙人か!  
いずれにしても我が家に、いや  
地球に今、凶悪な  
黒い影が接近して  
いるようだ。  
(つづく)



「ジャンボすし大会」という、設定がおもしろい。主人公の呆れた感  
じも伝わってきていいぞ。もう少し、母が巨大のりまきづくりに苦戦  
する描写があれば、冷静な息子とのキャラの対比が出てきてよい。

書き出しにインパクトがある。近ごろ話題の「メタポリックシンド  
ローム」を盛り込み風刺も効いていてよい。が、(つづく)はいただけな  
い! ハガキ1枚で小説を完結させるのがハガキ文学。書き直し!

## ナント! スペシャルにふさわしく、このふたりが緊急参加してくれた!



「酔っちゃたみたい...」彼女はホクの二層にまたれ  
かかった。オレもマキ、お茶飲ませちゃって、  
オシッコがもれそうだし、「いっちは髪を洗って、  
今日はマシな顔でいる。リアクションもない。  
オシッコが、もれそうだけ運転さんに車をとめて  
もらうのもはかしい。再び彼女の顔を見ると、  
くちまをこぼらしたまは出している。(もしかして...?)  
と思った瞬間、彼女の口から、お茶をこぼしたまは出  
ていきました。先生がかけよる。みんなのさげなす。



「そして、とりかえしがつかなくなると、  
やっらが攻めて来た!! 作、そにしけんじ  
ドカーンバキーンガラガラベキバキーン!!  
「もう町はめっちゃめっちゃだ!! 助けて!!」  
「ベキ!!」ついにオレの出番だ!!  
「ベキベキベキ!!」  
「ガッガッガッ!!」ドガワッ、ン!!  
ちぎって持たせ  
ちぎって持たせ  
ちぎって持たせ  
ちぎって持たせ  
どうする...オレ!!

そにしけんじ / 文&イラスト  
ご存じ「文具天国」の著者で、本講座登場人物  
たちの生みの親!

ドキッと書き出し、バスの中という、限られたスペース設定がスバ  
ラシイ。「吐く寸前、漏らす寸前の緊張感を「大人の恋」に見立てた」  
と、これまた書いてあった。せつない物語ですなあ。

擬音語が効果的に使われ、臨場感が出ている。勢いで「結」を乗り切  
っているのはさすが。欄外に「締め切り前の心境を書いてみた」と小  
さくあった。恐怖(?)の差し迫る感じがリアルなはずだ... (涙)

### ハガキ文学大募集!

1枚のハガキにキミのオリジナルの小説を書いて送って  
ね! テーマ、ジャンル、長さは自由。びっちり書くのもよし、  
数行でもOK! おもしろい作品は、万年筆先生が誌上で紹  
介&アドバイスするよ~!! 住所・氏名・電話番号を書いて  
〒101-8001 東京都千代田区一ツ橋2-3-1 小学館  
小六①「小説すらすら講座」係 まで送ってね!  
※個人情報の取り扱いについては、233ページをご覧ください。

今回のテーマは  
原稿の書き方を学ぶ  
小説独特の原稿用紙の使  
方、形式、会話文の入れ  
などをくわしく紹介  
ます!

小説に長さの関係がな  
い、ということがわかった  
かな。短くてもいいから、  
思いついた話をとんとん  
書いていこう。それをふ  
くらませれば、長い小説  
も無理なく書けるぞ!

